

メキシコ政治情勢（2024年5月）

〔概要〕

【内政】

- 2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は60%（3月から+2ポイント）。
- 12日、第三回メキシコ市長選挙候補討論会が実施された。
- 19日 選挙前で最後となる、第三回大統領選挙候補者討論会が実施された。
- 22日 ヌエボレオン州におけるマイネス候補のイベント中に、突風により舞台装置が崩落し、これによる死傷者は200名以上となった。
- 29日、大統領選挙にかかる選挙キャンペーン期間が終了した。

【外交】

- 2日、ロペス・オブラドール大統領は、訪墨中のロドリゲス・キューバ外相と会談した。
- 5日、メキシコを訪問中のブリセーニョ・ベリーズ首相は、バルセナ外相立ち会いのもと、ラテンアメリカ・カリブ宇宙機構（ALCE）の設立合意書に署名した。
- 6日、バルセナ外相は、グアテマラで開催された、移民と保護に関するロサンゼルス宣言に関する第3回閣僚会議に参加した。
- 6日、墨外務省は、5日に実施されたパナマ大統領選挙で勝利したムリーノ候補に祝意を表した。
- 6日、バルセナ外相は、移民と保護に関する閣僚会議に参加した。
- 15日、墨外務省において「移民問題における包括的対処のための省庁間委員会」が開催された。
- 17日、ロペス・オブラドール大統領とアレバロ・グアテマラ大統領は、外交関係樹立175周年を記念してチアパス州タパチュラ市で会談した。
- 23日、メキシコ・エクアドル情勢に関し、国際司法裁判所（ICJ）は、メキシコ政府が要請したエクアドル政府への暫定措置を支持しない立場を示した。
- 24日、墨外務省は、イスラエル政府からハマスに誘拐されたメキシコ人の遺体が回収された旨通知があったことを明らかにした。
- 30日 メキシコ政府は、コニール・ハイチ新首相の就任を歓迎した。

[本文]

【内政】

1 大統領支持率に係る世論調査結果

2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したロペス・オブラドール大統領の支持率は、60%（前月比+2ポイント）。詳細は以下のとおり。

(1) ロペス・オブラドール大統領の取組を支持するか。

ア 支持する：60%（前回（3月、以下同じ）58%）

イ 支持しない：39%（前回41%）

(2) 各分野におけるロペス・オブラドール政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い：38%（前回28%）

(イ) とても悪い、又は悪い：42%（前回42%）

イ 治安対策

(ア) とても良い、又は良い：23%（前回20%）

(イ) とても悪い、又は悪い：64%（前回68%）

ウ 汚職対策

(ア) とても良い、又は良い：29%（前回41%）

(イ) とても悪い、又は悪い：54%（前回43%）

エ 社会給付

(ア) とても良い、又は良い：57%（前回57%）

(イ) とても悪い、又は悪い：28%（前回26%）

(3) ロペス・オブラドール政権の外交政策における対応を如何に評価するか。

ア とても良い、又は良い：39%

イ とても悪い、又は悪い：36%

ウ どちらとも言えない：36%

エ 分からない：9%

(4) 以下のロペス・オブラドール政権の決定をどう考えるか。

ア エクアドルとの断交

(ア) 正しい：48%

(イ) 誤り：34%

(ウ) 分からない：18%

イ ブラス・エクアドル元副大統領を匿ったこと。

(ア) 正しい：34%

(イ) 誤り：48%

(ウ) 分からない：18%

2 第三回メキシコ市長選挙の討論会の実施

12日、第三回メキシコ市長選挙の討論会が実施された。市長選挙前の最後の討論会で、議題は治安及び都市開発計画であった。3候補者とも、第一回及び第二回と比較し、より具体的な政策提言が見られた。治安に関しては、ブルガダ候補（与党連合）は、警察機能の強化、女性の安全の保障等を挙げ、治安政策顧問にエブラル前外相、ガルシア前メキシコ市治安長官、ゴドイ前メキシコ市検事長の名前を挙げた。タボアダ候補（野党連合）は、汚職防止、ITを活用した警察機能強化等を含む計画を発表。チェリトリフスキ候補（MC）も警察及び検察の機能向上を挙げた。世論調査は6社中、5社で、ブルガダ候補が勝利との結果。他方、当地レフォルマ紙は、MC候補が、最も実現可能な提案をしたと評した。

3 第三回大統領選挙候補者討論会の実施

19日、選挙前最後となる、第三回大統領選挙候補者討論会が実施された。討論会のテーマは、①社会政策、②治安、組織犯罪③移民、外交、④民主主義、多元主義及び権力分立。市民運動のマイネス候補がシェインバウム候補の立場を比較的擁護し、ガルベス候補の立場を批判する場面が見られた。

4 マイネス候補の選挙イベントにおける死傷事故

22日、ヌエボレオン州におけるマイネス候補のイベント中に、突風により舞台装置が崩落し、これによる死傷者は200名以上となった。この事故を受けて、マイネス候補は選挙活動を一時休止したが、25日から再開した。

5 選挙キャンペーンの終了

29日、3月1日から開始され90日間に及んだ大統領選挙キャンペーンが終了した。各候補の動きは以下のとおり。

(1) シェインバウム与党連合候補

シェインバウム候補は、5月29日、メキシコ市憲法広場（ソカロ）で政治集会を実施し、キャンペーンを終了した。シェインバウム候補は、演説において、女性が大統領となることは歴史的勝利であると述べるとともに、ロペス・オブラドール大統領の遺産を守ることを約束すると述べた。その後、3月1日に発表した公約を繰り返す形で20項目について言及し、これらの実現には「第四次変革の次段階（segundo piso）」を構築する必要がある旨述べた。加えて、メキシコでは新自由主義は置き去りにされたとし、従来のPRI及びPAN政権を批判しながら、ロペス・オブラドール大統領をメキシコ史上最高の大統領であるとし、同政権の行った「新自由主義との闘い」、経済発展、社会正義を実現し、市民に影響を与えた改革に謝意を表した。6月2日にもう一度歴史を作ろうと呼びか

けて演説を終えた。メキシコ市治安当局発表によれば、同集会には55万人が集まった。

(2) ガルベス野党連合候補

19日、ガルベス候補は、選挙キャンペーン終了に先駆けてメキシコ市ソカロで政治集会を実施した。同集会は、教育労働者全国協議会（CNT E）がソカロの一部を占拠している状況で行われた。同候補は、演説のなかで、生命、真実、自由を3つの基本的価値として挙げ、メキシコは常に自由であるとし、今後数年間に国民が抑圧されるか自由であるかは今次選挙にかかっていると述べた。ロペス・オブラドール大統領を権威主義的であると批判し、それを終わらせるために投票に出向くよう呼びかけた。メキシコ市治安当局発表によれば、同集会には9万5千人が集まった。その後、「ガ」候補は、5月29日、ヌエボレオン州において、同キャンペーンを終了した。

(3) マイネス「市民運動」候補

29日、マイネス候補は、Maynez Capital Fest と称した若年層に向けたコンサートをメキシコ市内で実施し最終日の日程を終えた。なお、14日、モレノPRI党首は、マイネス候補にガルベス候補を当選させるべく大統領候補を取りやめるよう要請したが、マイネス候補は拒否している。

【外交】

1 キューバ外相のメキシコ訪問

2日、ロペス・オブラドール大統領は、メキシコを訪問中のロドリゲス・キューバ外相と会談。教育、保健分野の協力につき意見交換を行った。

2 ベリーズ首相のラテンアメリカ・カリブ宇宙機構（ALCE）の設立合意書署名

5日、メキシコを訪問中のブリセーニョ・ベリーズ首相は、バルセナ外相立ち会いのもと、ラテンアメリカ・カリブ宇宙機構（ALCE）の設立合意書に署名した。ALCEは、ケレタロ州に本部が置かれ、宇宙探索及び技術研究のための協力を地域間で調整する機関となる。

3 ムリーノ・パナマ大統領選挙候補への祝意

6日、墨外務省は、同省コミュニケにおいて、5日に実施されたパナマ大統領選挙で勝利したムリーノ候補に祝意を表した。同外務省は、「メキシコは、パナマと文化的及び友好的な結びつきがあり、外交関係樹立120周年を迎えるにあたり、パナマの人々との連帯と協力の絆を引き続き深めていく」と述べた。

4 バルセナ外相の移民と保護に関する閣僚会議への参加

6日、バルセナ外相は、グアテマラで開催された、移民と保護に関するロサンゼルス宣言に係る第3回閣僚会議に参加した。メキシコは移民戦略を拡大し、移民プロセスの4つ

の段階（出国、通過、目的地、帰還）に対応する「移動のメキシコ・モデル」を提示した。また、グアテマラからの労働者をメキシコ労働市場に組み込むためのパイロットプログラムを実施する旨発表した。バルセナ外相は、アレバロ・グアテマラ大統領、ブリンケン米國務長官、レイバ・コロンビア外相と会談。また、ホンジュラス、グアテマラ、メキシコ3か国会合を開催し、移民への協力、保護、領事支援に関する覚書に署名した。

5 「移民問題における包括的対処のための省庁間委員会」の開催

15日、墨外務省にて「移民問題における包括的対処のための省庁間委員会」が開催された。地域的な視野に立ち、移民の構造的な原因解決を優先し、在外メキシコ人コミュニティに留意しつつ移民問題に対処する計画、「移動のメキシコ・モデル」の実施を省庁間で合意した。

6 メキシコ・グアテマラ首脳会談

17日、ロペス・オブラドール大統領とアレバロ・グアテマラ大統領は、外交関係樹立175周年を記念してチアパス州タパチュラで市会談した。治安、インフラ、貿易、投資分野における共通課題に取り組むべく、特に国境地域での両国の協力拡大を約束した。

7 メキシコ・エクアドル情勢に関する国際司法裁判所の立場表明

23日、メキシコ・エクアドル情勢に関し、国際司法裁判所（ICJ）は、メキシコ政府が要請したエクアドル政府への暫定措置を支持しない立場を示した。墨外務省は「(ICJからエクアドル政府への)暫定措置は支持されなかったが、在外公館の不可侵は絶対であり例外は認められないこと、(今後)エクアドル政府は自国にあるメキシコの在外公館施設に立ち入らない旨約束した」と述べた。

8 ハマスに誘拐されたメキシコ人の遺体回収

24日、墨外務省は、イスラエル政府が現地メキシコ大使館に対し、昨年10月にガザ地区でハマスの誘拐されたメキシコ人、エルナンデス氏の遺体を回収したことを通知した旨明らかにした。

9 メキシコ政府、コニール・ハイチ新首相の就任を歓迎

30日、メキシコ政府は、5月30日に選出されたギャリー・コニール・ハイチ新首相の就任を歓迎した。